

競技上・審判上の注意

《競技上の注意》

- 1 本大会は、(公財)日本バドミントン協会「令和6年度 競技規則、大会運営規程及び公認審判員規程」により競技を運営します。(点数に関して進行状況などに変更する場合があります。
- 2 試合中の選手の荷物は指定された場所に置いてください。タオル等は直接床に置かないでラケットバックに収納してください。
- 3 試合中のインターバルは、主審の指示に従ってください。
- 4 同一選手の試合が、連続する場合は、原則10分の休憩を認めます。
- 5 競技進行の状況により、試合順番を変更して進めることもありますのでご了承ください。
- 6 事故発生時、本大会は保険に入っておりますので本部役員に相談してください。
- 7 試合は流し込みで行います。
- 8 試合前の練習は初戦のみ2分以内で行ってください。

《審判上の注意》

- 1 本大会は、(公財)日本バドミントン協会「令和6年度 競技規則、大会運営規程及び公認審判員規程」により審判を行います。
- 2 試合は21ポイント3ゲームのラリーポイント制で行います。スコアが20点オールになった場合はその後最初に2点リードしたサイドがそのゲームの勝者となります。スコアが29点オールとなった場合は、30点目を得点したサイドがそのゲームの勝者となります。
- 3 サービスは、サーバーのラケットで打たれる瞬間にシャトル全体が必ずコート面から1.15m以下で打たなければなりません。
- 4 試合においてすべてのゲーム中に、一方のサイドが11点になったとき60秒を超えないインターバル、第1ゲームと第2ゲームの間、第2ゲームと第3ゲームの間の120秒を超えないインターバルを認めます。
- 5 プレイヤーはインターバルを除き、試合中、主審の許可なしにコートを離れることはできません。しかし、ラリーが続いてる間にコートサイドのラケットを交換することはできます。ゲーム中、プレーが中断しない範囲であれば、プレイヤーは主審の判断で、タオルの使用や給水が許可されることがあります。
- 6 シャトルがインプレーでないとき及び両サイドのプレイヤーがサービスの態勢が整っていないときに限り、マッチ中のプレイヤーはアドバイスを受けることができます。
- 7 プレイヤーはどんなことがあっても、サービスを不当に遅延させる行為はできません。また、コート内を不必要に歩き回るなどの行為、ラケット交換に伴う試打はできません。
- 8 試合時に色付きの着衣を使用する場合は、(公財)日本バドミントン協会の審査合格品とします。
- 9 試合中のシャトル交換は、主審が必要か判断します。
- 10 審判員の判断に対して疑問がある場合は、当該プレイヤーに限って質問をすることが認められます。但し、抗議或いは意義であってはならない。
- 11 主審1名・線審1名を前の試合の敗者、線審1名を前の試合の勝者が行ってください。